

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796000038		
法人名	医療法人 真芳会		
事業所名	いきいきグループホーム 3F	【外部評価は2ユニット総合コメントである】	
所在地	大阪府堺市堺区大浜北町3丁10番16号		
自己評価作成日	令和3年3月3日	評価結果市町村受理日	令和3年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	s://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&IqvosvoCd=2796000038-00&ServiceCd=320&Type=se
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁131番地2
訪問調査日	令和3年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム(集団生活の場)として様々なイベントやレクリエーションに取り組む一方、常にノーマライゼーションを意識し、ささやかでも安心出来て心とむ「普通の暮らし」をモットーとしている。「健康維持」を第一義とし、訪問診療・看護、訪問歯科等の医療機関と連携を図り、疾病の早期発見と予防に努めさせて頂いて。利用者様の笑顔がご家族様の笑顔につながると考え、利用者様一人一人のさりげなくも微笑ましい日常の一コマを主にショートメールにてご家族様に発信。ご家族様とのこまめな情報交換を行うことで、利用者様へのケアやサービスについて相互理解と一致した方針に繋げていくことを心掛けている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の様々な制限下において、支援の質が落ちないよう、職員一丸となって支援の内容やご家族への連絡の拡充推進に取り組まれています。特に、ご家族への情報提供は、面会制限等で接する機会が減少している事を踏まえ、日々、細やかに提供することを務められています。外出制限もある中で、近隣への散歩やちょっとした外出など、感染症対策を十分踏まえた上で、利用者の外出にも取り組まれています。移動可能な利用者は、地域行事への参加機会の提供など、感染症対策が行われている範囲での外部との接触確保にも留意されています。施設内生活が主体になるため、集団生活の枠組みにあてはめるのではなく、利用者個々の状態や意向を踏まえた上で、可能な範囲の個別対応支援拡充が行われ、気分転換の外出や散歩等を大切にされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【外部評価は2ユニット総合コメントである】

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	多くの利用者様が堺市で長く暮らされてこられた方々であることを踏まえ、一人一人の利用者様がこの堺の地でこれからも健康的で不安なく暮らせるように援助させて頂く事が当グループホームの理念として、職員全体でその体現化に努めている。	理念は、地元地域との繋がり、生活を大切にしたい内容となっており、職員全体で、理念の実現に向けて取り組まれています。日々、ご家族からのお話や意見等も、職員に共有し、理念に沿った支援が行われているかの確認の機会にもなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に入会して自治活動への参加の一環として公園清掃作業に参加させて頂いている。隣近所様が家の改修工事などで工事車両等来られる際に施設の駐車場をご利用いただいている。	コロナ禍の制限下、行事への双方向参加等は制限されていますが、地域の清掃活動への参加再開等、できることから、取り組まれています。また、運営推進会議にも招聘し、意見交換の場、情報共有の場として、地域との繋がり拡充に努められています。	コロナ禍でも可能な、地域交流の拡充が望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様に同行させて頂いての地域のコンビニエンスストアや商業施設での買い物は、店員さんらのさりげない会話のやり取りの中で認知症や様々な障害への理解を深めて頂くきっかけとなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において地域の民生委員長様などに施設のありのままを見て頂く中で、ともすれば閉鎖的になりがちな介護の現場に極めて一般的かつ常識的な考えや視点を取り入れることができている。	運営推進会議では、一方通行の資料説明ではなく、双方向の話し合いができるよう、地域を含めた話題の提供に努められています。運営推進会議出席者に、実際に施設の中身や支援の内容を見て頂く事で、実際の現場や支援を踏まえたご意見等も頂く事ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム職員は利用者様の代弁者であるという意識を持って、市や区の職員様と連絡を密にとり知恵をお借りして、利用者様に繋げていくべき社会資源や制度の活用にも努めている。また施設で発生した事故の報告を迅速に行い、今後同様な事故を起こさない為にも担当者様からの指導やアドバイスを職員全体で共有するようになっている。	支援上の困難事由があるケースで、行政を含めた多方面の協議検討から、利用者に適した支援の提供に繋がれたケースが確認できました。施設の枠組みにとらわれず、行政の支援や協力を得ることで、利用者の利益に繋がる支援の提供が心がけられています。	

自己評価	項目	外部評価		
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1ヶ月に一回行う職員研修のテーマとしても「身体拘束」は積極的に取り入れ、約2ヶ月ごとに行う「身体拘束適正化委員会」の内容にあっても回覧資料としてすべての職員が読み、全体のものとしている。日常のケアやサービスに対して現状維持の姿勢ではなく、時にスタッフミーティングの中で問題点やほころびがないかを論議している。	2ヶ月に一度、身体拘束に係る適正化委員会の開催が行われています。委員会の内容は、職員間に共有されています。毎月行われる職員研修の中から出た課題や意見等を踏まえ、内容を委員会に報告し、検討課題とされています。委員会と職員双方の内容共有ができており、研修内容への反映にも繋がられています。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年7月に当グループホームでも利用者様に対する職員による「暴言」などの虐待が発生。その職員は自主退職したが、本件は施設内に大きな問題を投げかけた。職員一人ひとりへの教育や指導も大切であるが、互いに注意し合える、また労い合えるチーム作りが必要と考え、個人面談やミーティングを大切にしている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様のご様子を、メールや電話にて定期的の後見人様に報告させて頂き、健康面で気になることや受診の相談等相互に確認させて頂いている。「日常生活自立支援事業」についてはグループホームそのものがその役割を担う所であると考え、ご本人やご家族様の相談や要求を常に傾聴させて頂き、医療や行政等に繋ぎ連携を取らせていただいている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居契約時には利用者様とご家族様に「契約書」や「重要事項説明書」の内容を丁寧に説明させていただくとともに、それらの内容がご入居後どのような意味を持ち作用するのかを具体的な例を挙げてご理解いただけるように伝えさせていただいている。また施設として「出来る事」「できない事」を詳らかにさせて頂いたうえで、施設とご家族様相互に協力し合いながら課題の解決に臨む姿勢を常に持っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の訴えや要求に対して職員は常に丁寧傾聴させていただき姿勢を持ち、日々のケアやサービスの中でご本人と一緒に要求実現に取り組んでいる。また、ご本人の代弁者としてご家族様に対する思いや要求をお伝えし、施設として協力させていただけることを提案させていただいている。ご家族様へは主にショートメールにて報告連絡相談をこまめに行い、ご意見ご要望を尊重した実践に繋がっている。	コロナ禍の制限下において、面会制限等、家族との接点が減少しているため、日々、ショートメールを利用した日々の細やかな家族への情報提供に努められています。まめな情報提供を行う事で、家族からの返信や意見等も積極的に集まる結果に繋がっており、また、家族からの意見や返信は、職員にも共有されているため、速やかに直接の支援にも繋がる体制となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者やケアマネジャーよりも日々利用者様に深く関わっている介護職員の意見や提案の中にサービス向上のヒントがあると考え、個々の意見を全体に返して統一を図っている。職員一人ひとりに資質と経験に応じて具体的な役割を担ってもらい、権限と責任の両方を持ってもらっている。	家族からの意見や考えが、日々伝わってくることによって、職員も支援や運営について考える機会となっており、頂いた意見を基に、課題の抽出や、支援の変更、運営の改善へと繋がられています。職員会議で施設全体の課題検討や研修が行われており、職員全体で取り組む仕組みが確立されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人ひとりの実務能力を量や時間だけで評価するのではなく、熱意や思いやり、工夫といった利用者様本位の視点を重要視し「人事考課」に反映させている。人間関係の調整と個々の健康状態の把握に努め、時に管理者自ら現場の仕事をバックアップするように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修においては新人職員にはマンツーマンで学習の場を設け、研修テーマのポイントやレポート作成の際の視点などをアドバイスしている。正職員とパート職員の分け隔てなく、資質を見て「認知症介護実践者研修」などへの受講の機会をつくっている。職員一人ひとりがケース担当を担っており、責任感と自覚をもってケアに臨めるようにするとともに、問題解決の為の情報提供や話し合いを行っている。		

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ウェブ研修などを通じて他の事業所の管理者様と交流を図り様々な意見交換を行っている。施設が変われば理念や考え方は当然変わるものであり、当グループホームが固定観念に凝り固まってしまうまいよに参考にさせて頂いている。 同法人他施設の管理者やケアマネジャーとの意見交換も知識や情報を共有し発展させていく為に随時行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居当初などは時に「帰宅願望が」現れたり「なぜ自分がここにいるのか」と混乱や不安に陥られる方がおられる。ケース担当を中心にその方の不安や訴えを受け止め信頼関係を築いていくようにしている。マンツーマンでの散歩や共に行う家事などで利用者様にとって職員が安心できる存在であるとともに対等平等な関係であることをご理解いただくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様は今後グループホームで暮らしていかれる利用者様が新しい環境になじんでいってくれるか不安を抱かれる事も多く、利用者様の日々のご様子をショートメールなどで詳しくお伝えさせて頂く事で安心して頂いている。利用者様に対してご家族様しか出来ないこと、施設ならではの出来る事があるのでこまめな話し合いを大切にして協力し合える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の健康状態は様々であり、まずは医療と連携を図りながら疾病の早期発見と予防に努め、その上で個別要求の実現を目指している。その要求とは例えばささやかな外食であったりするが、個別要求が他の利用者様との共通する要求となる場合もあり、一つの取り組みに発展させている。ご本人とご家族様が求める支援に対して施設だけの考えで完結させるのではなく福祉用具業者様、鍼灸師の先生等それぞれの専門分野のご意見を参考にして、またご家族様にも返している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の利用者様の性格や生活歴に目を向けて、一律な対応ではなく個別のドライブや買い物などで時間を共有させていただき話し合える場を設定させていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に対するどのような支援やケアにあってもご家族様のご意見やご要望をまず聞き入れ、共通の見解をもって体現化させていくようにしている。ご本人の周囲に対する暴力行為などについても記録化とその分析、カンファレンスの結果等をご家族様に報告し、それぞれの立場からご本人を支援していく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしている昔の写真を通してコミュニケーションを図り、ご本人のこれまでの人生とその思い出が記憶の中から途切れぬように支援させて頂いている。遠方のご家族様や遠縁の親戚の方へのご本人の近況報告を随時させて頂き、絆のパイプ役を努めさせて頂いている。	コロナ禍の制限下において、外出の自由度や面会の自由度が失われている状況の中、繋がり維持のために、会話の中で思い出を維持したり、写真を通じて利用者と共に話す事によって、途切れない関係性の維持に努められています。また、親類の方々との接点を増やすなど、できる範囲の関係継続支援拡充が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様2～3人をお連れしてのドライブにおいて車内で「懐メロ」を合唱するなどして親睦を深めて頂いている。ある利用者様が全体の為に行ってくれているテーブルふきなどの仕事は集団の中で評価させていただく。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人が当グループホームを退去されたご家族様にあっても電話やメールにて連絡させていただき、ご本人のご様子をお伺いさせていただくとともにご協力させて頂ける事があればお気軽にご相談くださいと伝えさせて頂いている。		

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「普通の暮らし」の視点を大切に、買い物や外出などの当然の要求を汲み取り実践させていただいている。 要求を自ら訴えることのできない利用者様の潜在ニーズに目を向ける事も重要視し、ご家族様からのご要望とも重ね合わせて具体化させている。 そのような実践の中から介護度の高い利用者様を公園にお連れさせて頂いた際に意外と動物に関心を示されることを発見できたといった成果にも繋がっている。	個別支援の強化に努められており、利用者個々の思いを踏まえた支援の提供に努められています。 利用者の様子や、家族からの意見を踏まえ、意向の把握に努められています。 利用者の日常生活を意識されており、家での生活、従前普段通りの生活の再現に取り組めるよう、予定にとらわれることなく、可能な範囲での利用者意向実現に取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などの情報収集をコミュニケーションのひとつとらまえて実践を行っている。 ドライブで堺市内を周遊して頂いた際に利用者様が自ら周囲の景色に触発されて昔の街並みの話をされたり、その流れでお若いころの仕事の事に話がつながることもある。 そういったご本人の生き生きとしたご様子をご家族様に報告させて頂き、ご本人の話の整合性も確認させて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現場の職員が記録するバイタルチェック表を含む「生活記録」と管理者が中心となって記録する「支援経過」の両方の記録で利用者様の心身状態の把握と分析に努めさせて頂いている。 時に精神的に不安定になられ暴力行為に及ぶ方などへのケアについては、そういった対応に特化した記録も別に作り、専門医への相談時の情報として活用させて頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まず日常的なご家族様とのメールのやりとりで利用者様のご様子健康状態を把握頂き、ご家族様の思いやご要望を聞き取らせていただいている。 ご本人とご家族様のニーズを前提として随時ケースカンファレンスを行い、その結果をまたご家族様に報告させて頂く事で一方通行でない関係を築かせて頂いている。 問題や課題に応じて医療や行政に相談させていただき、支援の取りまとめ役を努めさせて頂いている。	コロナ禍の制限下において、家族との日々の情報交換の拡充、家族意見等の職員間の共有が推進されたため、個々の職員も家族の意向に沿った支援、必要な計画、必要な支援を考える意識の維持につながっています。 計画の評価見直し時には、家族の意向も踏まえた支援を振り返り、日々職員間で共有されている情報から、利用者のための計画策定に繋がられています。	

自己 評価	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の様式は同じであってもそれぞれの利用者様で注意してみていくポイントは違うので、職員間で「記録する」ことだけでなく「言葉で伝えていく」事も大切にしている。「生活記録」では利用者様ご自身の一日の様子を中心に記録化し、「支援経過」では利用者様を取り巻く医療やご家族様からの諸情報を中心に記録させて頂いている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ育つニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「前例が無いからやらない出来ない」ではなく、まず利用者様ご本人とご家族様の思いや要求を汲み取ることを実践における姿勢として大切にしている。新型コロナウイルス非常警戒態勢の中、利用者様との買い物などを自粛せざるを得なくなった状況の中、代案として「外気に触れ気分転換を図る」事を目的にドライブの取り組みを昨年7月より実施させて頂いている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商業施設や公共機関等が企画主催するイベントなどを調べて、利用者様一人ひとりのニーズに合致すればご参加頂いている。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週木曜日の訪問診療にて利用者様の体調面で気になる点を主治医に相談させていただき、必要とあれば紹介状を書いて頂き総合病院や専門医への受診に繋げさせて頂いている。その際に受診する病院の選択はご家族様に相談し、協議して決めさせて頂いている。	受診先については、ご家族に相談し意向を踏まえた協議を行った上で、選択されています。施設嘱託主治医の、訪問診療が毎週行われており、利用者の変化や異変には、必要に応じた専門医等への紹介が行われています。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「医療連携ノート」を用いて利用者様の体調面で気になる点を記録化。毎週火曜日の訪問看護にて看護師に相談させて頂いている。急な事故やケガ、夜間の発熱などにあってもオンコールで看護師に相談させて頂き、相談内容や結果をご家族様に報告させて頂いている。		

自己 評価	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院や受診は基本ご家族様に対応をお願いさせていただいているが、救急搬送や臨時の受診などの場合職員が同行させて頂いている。救急搬送時はご本人の基本情報や医療情報を1冊にした「受診ファイル」を持参。病院に詳しく情報を伝えさせて頂いている。入院が決まれば「入院時連携シート」を作成お届けさせて頂いている。入院中はソーシャルワーカーや看護師と情報交換に努めさせて頂いている。退院前に必要とあればカンファレンスに参加させて頂いている。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様ご本人の食事量や水分量の減退などについて日常的にご家族様に報告。ご本人のお好きなものを購入して食べて頂くなど施設としてできる工夫を伝えさせて頂く。特にご家族様が遠方の場合、施設がご家族様と医療とのパイプ役となり、看取り介護なども含め話し合いを行っていく。ご家族様のご意向を確認したのちも利用者様の状況の変化のたびに細かな確認をご家族様と行い、必要と思われる情報などは提供させて頂いている。	入居時に、説明と共に意向を確認し、節目となる状態や健康の変化があった場合にも再確認されています。また、状態が継続した場合でも、意向の変化は有り得るため、ちょっとした変化やきっかけ、一定の状態継続時にも意向の再確認が行われています。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様全員の「受診ファイル」を用意しており、既往歴やかかりつけの病院などがどの職員にも分かるようにしてある。個々のケースに応じて疾病の特徴や注意点などを職員間で確認し合い、とっさの救急搬送時にスムーズに対応できるようにしている。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回実施している「自衛消防訓練」では一部の利用者様にもご参加頂き、職員と共に経験を積んでいただいている。津波などの水害についても避難誘導の方法を文書化し職員の認識を共通のものとしている。	水害に関するマニュアルが整備され、近隣施設への避難想定などが定められています。研修で、火災発見時の対応について、様々なケースを想定したわかりやすい説明内容が、取り上げられています。	

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護度が高く認知症の進行が著しい利用者様であっても人格を尊重し、自己判断や自己防衛出来ないご本人に代わって尊厳やプライバシーをお守りさせていただいている。	人格の尊重を意識し、意思表示が困難な方であっても、その方の意思を確認することで、利用者不在の応答や決定にならないよう配慮されています。される側の気持ちを意識し、支援提供時の言動に留意されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の中には無口であり誰とも接しようと思えない方もおられるが、入浴時などにマンツーマンでお話をさせて頂くと「ラーメン食べに行きたい」といった具体的な要求をお聞きできることがある。要求実現に向けてご本人に何軒かのラーメン屋さんを提案させて頂き、決めて頂くといった働きかけをさせて頂いている。一人ひとりの利用者様に自己決定して頂くために、分かりやすい質問の仕方や、イメージしやすい提案の仕方に気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの「その日の気分」を大切にしたいと考えており、予定や計画に固執せず、利用者様本位で入浴の順番や散歩の順番を決めさせて頂いている。言葉で要求を伝えることのできない方の気持ちに寄り添い、笑顔や表情の変化でその方の要求を可能な限り汲み取れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症が進行して、ご自分で身だしなみなどを意識されなくなった方にも、女性は女性らしく男性は男性らしい身だしなみや服装で過ごしていただくための支援をさせて頂いている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	精神的に不安定になられることがあり時に暴力的になられる方でも、状態が安定されているときには喜んで食器拭きなどして頂けることもあるので、共に楽しむことを大切にしています。日頃は職員主導で食事の準備を進めているが、手作り料理のイベントなどでは多くの利用者様にお手伝い頂き、達成感も感じて頂いている。	利用者が共に楽しむ事を大切にした、食事への支援提供が心がけられています。声かけ、コミュニケーションにも留意し、疎外感がないよう配慮されています。利用者の自己肯定のため、できることへの取り組みは、極力取り組めるよう努められています。季節の料理に、利用者皆で取り組み、利用者個々思い思いの内容で作成に取り組む楽しみに繋がられています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	どの方にあっても過不足なく食事と水分を摂っていただけるように、利用者様に合わせて食事の形態を工夫。食事にあっては刻むことやミキサーがけ、ムース食の使用等。水分にあってはトロミやゼラチンの利用で安全で無理なく摂取できるものを提供させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に重度の障害をお持ちの方には虫歯予防の視点のみならず、舌筋力の維持、口腔内マッサージを大切な視点とし、歯科衛生士様の指導の下「誤嚥性肺炎」の予防に努めさせて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ユニット1(3階)では排泄において全介助一部介助の方々が多くいらっしゃる、記録化により個々の排泄リズムを把握しトイレ誘導に努めさせて頂いている。介助時は便や尿の量と状態の確認だけでなく、座位姿勢がしっかりとれているか、陰部や臀部の傷やただれ、褥瘡などがいないかのチェックもケアの一環として定着させている。トイレでの陰部洗浄も励行しており、尿路感染の予防に努めさせて頂いている。	利用者の意向や思いを踏まえ、過度にならないトイレ誘導に努められています。誘導時の声かけは、話の流れなどから自然に繋がられるよう配慮されています。排泄支援時には、他の体の状態も含めた観察が意識されており、褥瘡やただれ、傷等の発生確認にも配慮されています。同性介助を基本としており、異性介助となる場合には利用者本人の承諾を得た上で行われています。	

自己	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の基本として一日最低1000ccの水分を摂っていただく事をどの利用者様にも働きかけさせて頂いており、訪問看護師にお願いして聴診にて腸の扇動が正常であるかお調べ頂いている。認知症の進行によりご自分で便意を感じる事の出来ない方は排泄記録を参考に定時のトイレ誘導をさせて頂き、時間をかけて排泄介助をさせて頂いている。主治医に相談し一人ひとりの利用者様に適した便秘薬を処方頂き、排便状況を医師に報告することでまた、便秘薬の調整をして頂いている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の中には入浴に拒否的な方もおられ、職員との笑いのある会話やリラックスしたムード作りの中で、無理なく入浴への誘導をさせて頂いている。逆に入浴をととても楽しみにされている方もおられ、入浴時間はマンツーマンで触れ合える大切なコミュニケーションの場として機能している。また入浴の介助は利用者様の身体に傷や湿疹等がないかしっかりとボディーチェックできる機会としても重要と捉えている。	入浴時間帯や入浴日は、利用者の意向も踏まえた上で、柔軟な入浴支援に努められています。入浴時は、利用者との重要なコミュニケーションの場であると意識し、楽しい会話、気分良く入浴して頂く事が配慮されています。体の状態に変化がないかの確認も、入浴時に行われています。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の中には認知症からくる「幻視」に悩まされ、睡眠を妨げられる方もおられるが、ご本人の訴えを決して否定することなく受け止め「夜の間も必ず職員はあなたの近くにおいて、何か起こればすぐに駆けつけますから安心してお眠りください」といった言葉かけで不安を取り除き、就寝へと誘導させて頂いている。また、眠りが浅く夜間に何度か目覚められ徘徊されたり、時に混乱されて粗暴行為に及ぶ方もおられるが、ご本人の苦しみを和らげる事を目的に、専門医に相談し眠剤等の調整をして頂いている。		

自己 評価	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に「向精神薬」や「抗不安薬」については医師や薬局様と連携を図り、調整、変更、中止といった検討を行っている。利用者様にご入居時に持参された薬についてはご入居後も定時薬として継続させて頂く事が多いが、その中には「抗不安薬」なども含まれる。それらはご本人がグループホームでの生活の中で精神状態が安定され、もはや必要でなくなることもあるので、ご本人の状態をよく見極め医師に報告相談を重ね、薬の減量や中止へと繋げさせて頂いている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「お好み焼イベント」など集団で楽しむ取り組みについては日頃集団になじんでいるとは言い難い利用者様が楽しそうにお好み焼を皆様の分も焼いてくれるといった場面もあり、利用者様一人ひとりが楽しみながら活躍できるような働きかけを重視している食前食後のテーブルふきや職員と共に野外にゴミ出しにいて頂く等、利用者様の適性に応じて仕事を担っていただき、感謝を言葉にして伝えさせて頂いている。		
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園などへの散歩やドライブにおいて外気に触れて頂く事と気分転換を図らせて頂いているが、コミュニケーションも大切な目的と考えている。重度の認知症で言葉は話せても「会話で意思疎通を図る」ということがかなり困難な利用者様もおられるが、話しながら散歩させて頂くとまるで会話のリズムやテンポそのものを楽しまれているように笑顔でよくお話し頂ける。買い物や外食、また通院など外出の目的はさまざまであるが、それぞれの場面でのコミュニケーションを意識して支援させて頂いている。	コロナ禍の制限下において、感染症対策が見通せる範囲での外出支援が行われています。外出時は、利用者とのコミュニケーションが図れる貴重は機会であり、意識した会話に取り組まれています。範囲を限定した外出で、少しでも利用者の気分転換に繋がるよう努められています。利用者個別の要求を大切に、可能な範囲での実現に取り組まれています。	コロナ禍でも可能な外出支援の拡充が望まれます。

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者様の金銭は基本事務所の金庫にて管理させていただいているが、ご要望に応じて数千円程度は個人で所持頂いている。買い物ではご自分で支払うことのできる方にはそうして頂き、それが困難な方であっても「自分で買い物している」という実感や店員さんとのやりとりを楽しんでいただくために、職員が援助しながらご本人にレジでの支払いをして頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>特に遠方に住まわられていて面会に来るのも困難なご家族様など、電話を取り次がせていただき利用者様の元気なお声を聞いて安心して頂いている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様の中には椅子や靴、雑貨類など様々なものに興味を示し、それらを移動させたり取り込んでしまわれたりされる方もおられるので、事故につながるような備品物品の類は極力共用スペースに置かずシンプルな空間を心掛けている。ただ殺風景にならぬように主にリビング中心に季節に応じた飾りつけを施している。</p>	<p>外出や面会機会が減少したため、共有空間で快適に過ごせるための、取り組み拡充に努められています。利用者がすごしやすい居場所づくりに配慮した配置がなされ、個々のスペース確保ができています。壁面には、利用者共同製作の、季節にあわせた装飾が行われており、親しみやすい雰囲気形成につながっています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ユニット1(3階)の利用者様の中には感情の起伏が激しく、時に大声を出されたり他の利用者様とトラブルになるかたもおられる。個々の利用者様の性格やその日の状態を見極め、リビングではその都度臨機応変に職員が皆様を適した席に誘導させて頂いている。利用者様同士で仲良くテレビをご覧になっていただけるように、テレビ周りに椅子をサークル状に配置し職員も輪に加わり「時代劇」などをご鑑賞いただく場面もある。</p>		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一定自立されている方には居室内の整理整頓を出来るだけご本人にお任せし、その人らしい居室空間づくりをして頂いている。また重度の利用者様にあっても就寝時に共に布団の準備をさせて頂く事で「ここが自分の部屋である」という認識を持って頂くようにしている。	利用者の生活機能と居住性に配慮した、室内配置が行われています。室内の配置状況は、利用者の意向を踏まえ、確認した上で、整えられています。居室内の小物や装飾は、意向を踏まえた上で、希望に沿った追加配置等に努められています。利用者の体調にあわせた、温湿度調整に努められています。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の中にはトイレや洗面所の場所をなかなか覚えられない方がおられる。職員が一方的に誘導させて頂くのではなくご本人の想いを尊重してタイミングを見て歯磨きなどのお声掛けをさせて頂いている。「そこに行って何をするのか。なぜそれしなければならぬのか」ということも言葉で丁寧に伝えさせて頂いている。一定自立されている方たちはトイレの誘導表示を見てご自分で向かわれ、タオル掛けの名札でご自分のタオルを識別されている。		